森林GISフォーラム

ニューズレター　Vol. 42
２００９年１月

新会長挨拶：システム全入時代の森林 GIS フォーラム

第８代会長 松村直人（三重大学生物資源学部）

４月より加藤前会長の後を受けて、当フォーラムの会長を務めることになりました。産官学の連携と森林GISに関する情報交換の場を提供することを目指して活動してきました当フォーラムも、本年にははやくも設立 15 周年を迎えることになります。この間の GIS を取り巻く環境の変化には、目を見張るものがありますが、特筆すべきはフォーラムの地域セミナー開催を支援して頂いてきました全国都道府県への森林情報システムの導入が一巡し、全入時代を迎えることとなったことです。初期に導入した県は、すでに２，３回目のシステム更新を終了しているかと思います。このような状況の中で、フォーラムの役割や会員の皆様のご期待を再検討して、活動を活性化させていきたいと思っています。

従来活動の中心でありました地域セミナーと東京シンポジウムは会員や各関係機関のメンバーが集まる貴重な場であったと思いますので、今後とも継続していきたいと考えますが、フォーラムの独自性を生かした企画を検討していく必要があると考えています。また、各大学の学生参加や地域活動の一環として、近年取り組んできました「学生フォーラム」や「GIS/RS セミナー」もいっそう充実していければと思います。日進月歩の技術革新の中で、学術研究の推進支援、特に森林 GIS の新たな展開を担う次世代を養成していくことと、ユーザーの拡大、特に森林組合等で地域の森林管理の前線に立つ実務者の支援は大きな柱になると思います。

このような広範な活動は一人ではもちろん不可能ですが、佐野副会長はじめ、今年度から２名の事務局体制としました松英事務局長、会計担当の光田氏、ならびに各賛助会員企業、地区委員、そして会員の皆様のご支援をいただきながら、今後とも、森林学会、森林計画学会、林野庁、都道府県、市町村などの各機関と連携して活動できれば目標を達成できると思いますので、これまでにも増してご支援をよろしくお願い致します。

（重要）森林GISフォーラムのホームページ移転について

事務局体制の改変、移行に伴い、この度ホームページ管理体制も一新致しました。それによりサーバー・ドメインの移転の必要性が生じたため、会員の皆様にはご迷惑をおかけしますが、下記URLにブックマーク・お気に入りの登録変更をお願い致します。

http://www.fgis.jp

（重要）Ｅメールアドレスをご連絡下さい。

情報配信の迅速化，省力化を図るため，ニューズレター等をインターネットによる配信に切り替えています。また，メールアドレスが変わったなどで連絡を取ることができない会員もおられます。お手数をお掛けしますが，事務局（info@ fgis.jp）まで，タイトル「FGISメールアドレス」とし，ご連絡をお願いします。

≪行事開催の記録≫学生・技術者のための GIS/RS セミナー in 名古屋 2008
開催日：2008 年 9 月 8 日(月)～9 日(火)
場所：名古屋大学大学院農学生命研究科
〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町 350

開催報告

名古屋大学 山本一清

名古屋大学大学院生命農学研究科において、2008 年 9 月 8 日（月）～9 日（火）に森林ＧＩＳフォーラム主催「学生・技術者のための GIS/RS セミナー in 名古屋」を開催しました。内容は「GRASS GIS（フリーソフトウェア）による GIS/RS 解析入門」で、名古屋大学農学部の実習テキスト「GRASS GIS 6.2.2 初心者用チュートリアル」の 2008 年度改訂版を利用して、名古屋大学大学院生命農学研究科のマルチメディア教室で以下の内容について実習形式でのセミナーを行いました。

１）GRASS GIS 入門　GIS データベースの構築
２）GRASS GIS による GIS 解析　空間解析、投影変換、空間演算
３）GRASS GIS による RS 解析　カラー合成表示、植生指標、教師付き・教師なし分類

参加者は、学生 4 名、社会人 9 名の計 13 名の申し込みがあり、サポートする名古屋大学の学生 2 名を含め、集中したセミナーとなりました。講師は、山本（名古屋大学大学院生命農学研究科）がつとめ、セミナーの最初に三重大学の松村会長から挨拶及び森林ＧＩＳフォーラムの紹介が行われた後、名古屋大学農学部の実験実習と同様、Linux（Fedora8）サーバーを利用して GRASS GIS をリモート接続により、マルチメディア教室内の Windows PC から参加者・サポート学生・講師の 16 名が利用する形式でセミナーを実施しました。

参加された方の多くは、既に GIS の実務経験を持った方が多く、今回のセミナーで利用したフリーソフトウェアである GRASS GIS にも興味を持たれていたようでした。実際に、実務での GRASS GIS の利用を想定した質問が多く出され、私にとっても実際の実務に GIS がどのように使われているのか、またどのような機能が求められているのかを知ることができ、とても参考になるセミナーでした。

セミナー終了後、に参加者一人づつに感想をお聞きしましたが、概ね今回のセミナーに満足頂いたこと、また GRASS GIS の実務への利用に十分な手ごたえを感じて頂けたことは、開催した私どもにとっても大きな喜びでした。

なお、最後になりましたが、今回のセミナー開催にあたり、お世話になりました多くの方々に、紙面を借りてお礼を申し上げます。

≪行事開催の記録≫平成 20 年度地域セミナー in 香川
開催日：2008 年 9 月 11 日(木)
場所：高松サンポート合同庁舎アイホール
〒862-0956 高松市サンポート３番 33 号

《プログラム》

■【賛助会員による森林 GIS のデモ】　11 時～17 時
　　パシフィックコンサツタンツ株式会社、株式会社パスコ

■　　【地域セミナー】　13 時 00 分～17 時 00 分
●13:00 開会宣言
●13:00 会長あいさつ
●13:10 【講演】
河野　裕（香川県環境森林部みどり整備課）
「香川県森林地図情報システムの概要について」
●13:50 【講演】
永井　敦（愛媛県いしづち森林組合）
「森林ＧＩＳを活用した施業集約化の取り組み事例」
●14:30 休憩
●14:40 【講演】
向谷光彦（高松工業高等専門学校　建設環境工学科）
「自然災害へのＧＩＳの活用について」
●15:20 休憩
●15:30 賛助会員話題提供
中村　尚（パシフィックコンサツタンツ株式会社）
「インターネット公開型 GIS について」
●16:00 賛助会員話題提供
鈴木　仁（パシフィックコンサツタンツ株式会社）
「愛媛森林総合情報システムについて」
●16:30 賛助会員話題提供
鈴木　仁（パシフィックコンサツタンツ株式会社）
「パシフィックコンサルタンツの取り組み」
●17:30 閉会

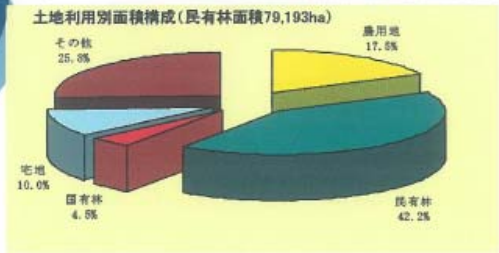
香川県森林地図情報システムの概要について

香川県環境森林部みどり整備課　河野　裕

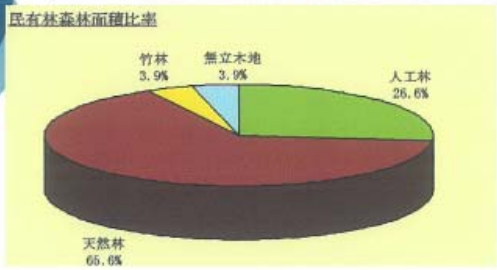
目　次

1 香川県の森林資源の概要
2 システムの概要
3 システムの活用事例
4 今後の課題
5 今後の森林ＧＩＳの展開と可能性
6 おわりに

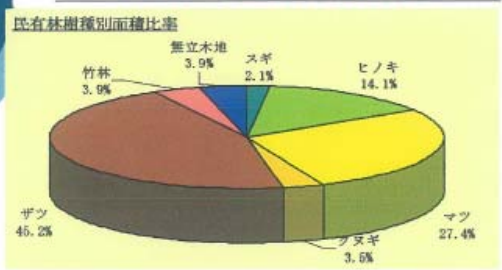
香川県の森林資源の概要



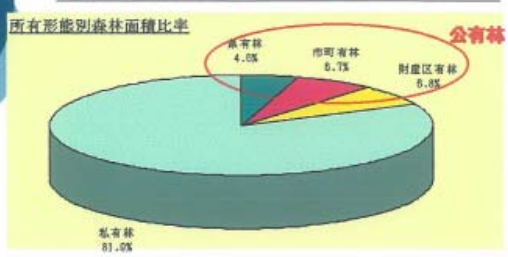
香川県の森林資源の概要



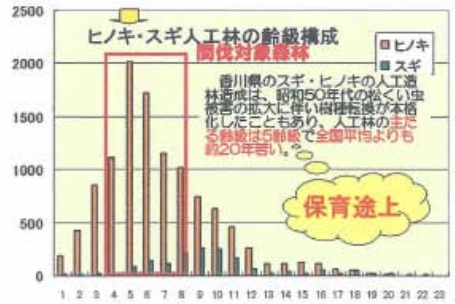
香川県の森林資源の概要



香川県の森林資源の概要



香川県の森林資源の概要



システムの概要

導入目的

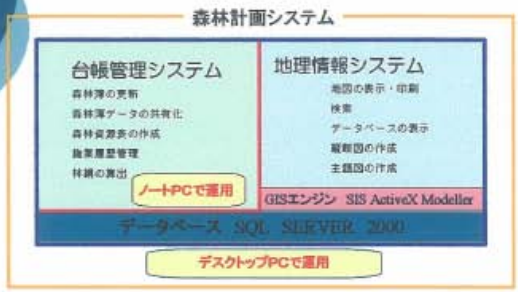
- ①民有林の区域と、その資源状況の効率的な把握（手作業で行っていた森林計画編成作業の省力化・迅速化・正確化）
- ②各種事業計画作成時の基礎資料としての有効活用（条件設定による必要な帳票の作成など）
- ③視覚的な各種行政資料による高度な行政判断や企画立案（複数の地図データを任意に組み合わせて1つの図面にするなど）
- ④林務関係の地図情報の蓄積、一元的な管理（迅速な照会業務への対応や県民ニーズに応じた情報提供）

システムの概要

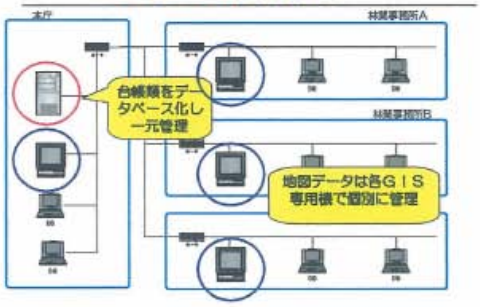
システムの沿革

- 森林を取り巻く諸情勢の変化に対応するため、平成6年3月に香川県森林・林業基本計画を策定
- 今後の施策展開を図るための基礎資料を得るため、森林の持つ多面的機能についての総合的な評価システムを構築し、その評価に基づいて保全指針を明確化することを目的として、平成8年度から森林GISのシステムの開発をスタートし、順次森林情報システム、森林機能評価システムを整備
- 平成15年度より本格的な運用を開始
- 現在県庁内にサーバー1台とクライアント5台、そして出先事務所にクライアント3台の計8台で運用

システムの構成



システムの運用形態



管理するデータ

台帳（データベース）

- 森林簿
- 所有者
- 林分収穫表
- 流入・流出
- 準林班
- 林道
- 施業履歴

GIS（地図データ）

- オルソ画像（ラスタ）
- 数値地図25000（ラスタ）
- 森林基本図（ベクトル）
- 小班（ベクトル）
- 林班・準林班（ベクトル）
- 市町界・大字界・字界（ベクトル）
- 数値地図50mメッシュ

小班ポリゴンと森林簿の関係

小班ポリゴンは地番単位に作成されている

森林簿は小班を施業単位に分割したデータで管理されている

施業＝森林簿の1レコードに対応する

森林簿

市町	大字	地番	林班	亜林班	小班	枝番	林齢	更正面積	樹種	林齢	・・・
○○	△△	10-1	108	5	111	000	1	3.00	スギ	20	
○○	△△	10-1	108	5	111	000	2	1.61	ヒノキ	15	
○○	△△	10-1	108	5	111	000	3	1.45	マツ	25	

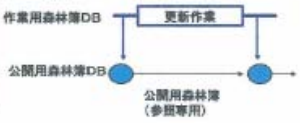
機能の概要

機能	データベース	GIS
検索	定型検索 詳細検索 地図検索	地番検索 DB検索
集計・表示	各種資源表、グラフ集計	小班・亜林班・林班単位の各種色塗り 地図上のグラフ表示
出力	CSVテキスト、EXCEL、ACCESS、プリンタ	任意縮尺の出力、画像出力、ワールドファイル出力
その他	年次処理、ログイン管理、各種マスタ管理	各種地図データの読込、鳥瞰図表示、任意縮尺図表示 地図データの入力・編集

森林簿DBの二重化

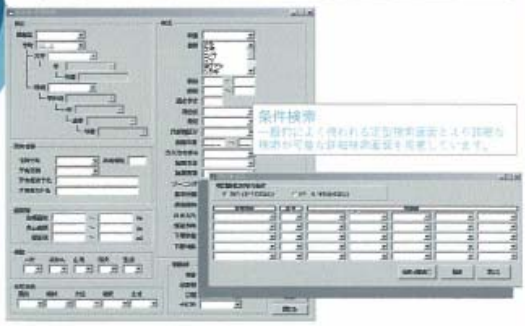
- メンテナンス性を考慮して公開用の森林簿と作業(編成)用の森林簿にDBを二重化しています。両者は年に1度のタイミングで同期がとられます。

起動画面

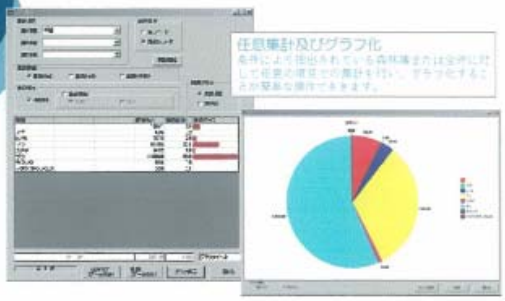


DB の機能1

DB の機能2

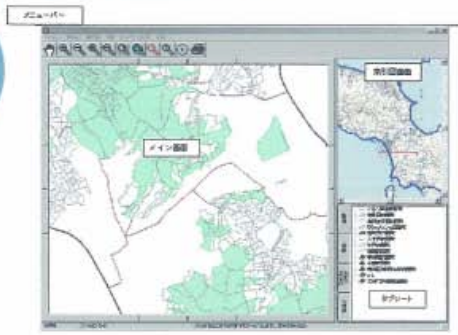


DB の機能3

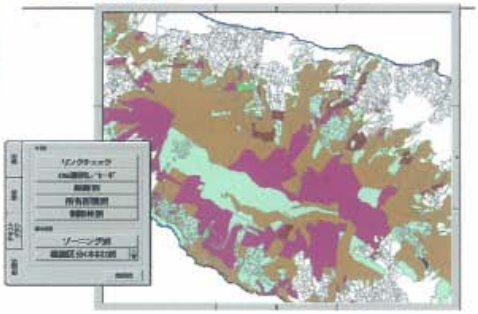


DB の機能4

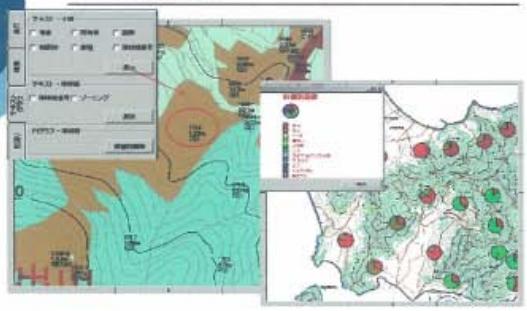
GISの画面イメージ



GISの機能1

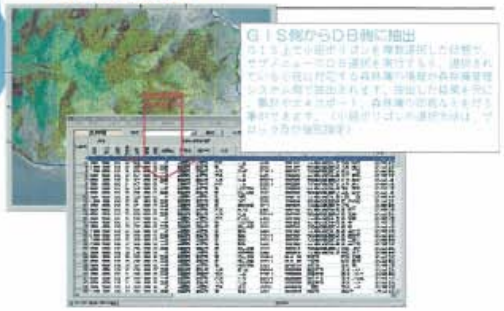


GISの機能2

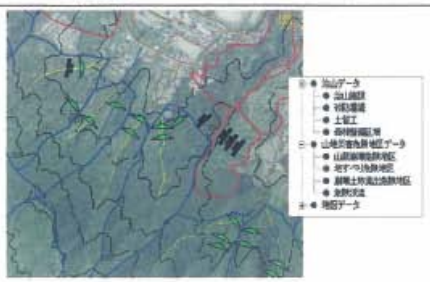


GISの機能3

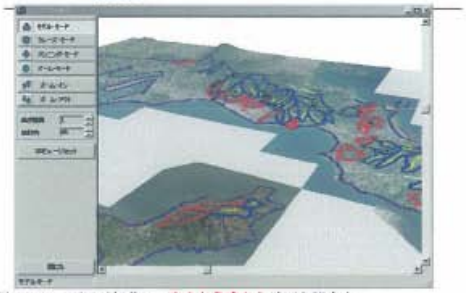
GISの機能4



GISの機能5

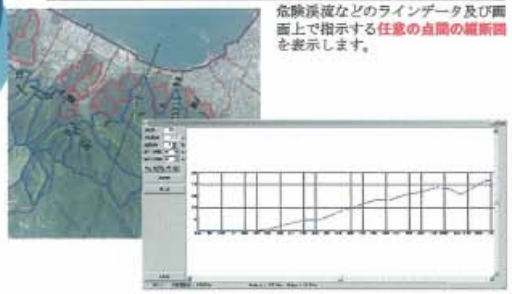


GISの機能6



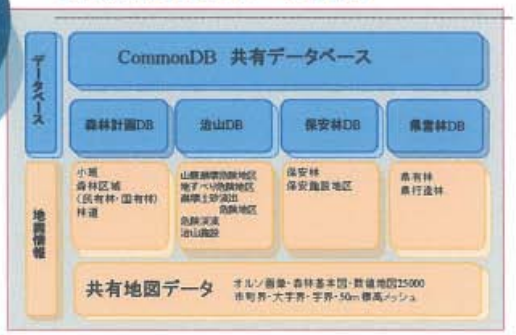
専用ビュワー画面が起動し、**自由な角度から**地形を観察することができます

GISの機能7



危険渓流などのラインデータ及び画面上で指示する**任意の点間の縦断図**を表示します。

森林簿情報のデータ構成



森林計画システムの活用例

森林計画では森林簿の林種・樹種情報とオルソ画像を活用し、確認・調査。

- 森林区域及び林種確認
- 竹林拡大区域の調査
- マツ林減少区域の調査

森林分野での活用　総括

森林分野では地図等で識別されていない情報をオルソ画像により判読し、確認・管理・調査に活用。

治山台帳管理システムの活用例

治山台帳管理では山地災害危険箇所及び治山施設の背景としてオルソ画像を活用。

- 山地災害危険箇所内の山林荒廃状況の確認
- 治山施設位置の確認

保安林管理システムの活用例

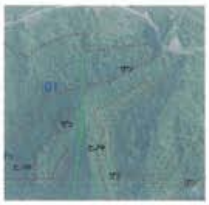
保安林管理では保安林・保安施設地区の申請・管理にオルソ画像を活用。

- 保安林・保安施設地区の指定，解除等申請添付図の背景に使用
- 保安林区域内の管理

県営林管理システムの活用例

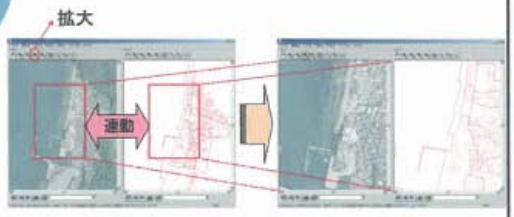
県営林管理では官行造林・県行造林の管理にオルソ画像を活用。

- 県行造林・官行造林内の樹種界の確認
- 材積計算面積の確認



MultiViewの特徴

拡大・縮小、移動などあらゆるビュー制御に対し、２画面が同期連動し、同じ位置・縮尺で表示。



活用事例1（林地開発調査）

森林区域内における、無許可開発の調査・確認

- 林地開発箇所の発見（現地またはGIS）
- 森林区域の内外判定
- 開発許可の有無
- 基準年時点での開発状況の確認
- 基準年以降の開発拡大有無の確認
- 開発面積計測
- 所有者または開発者の確認
- 是正指導

開発調査 ①

平成１２年時点では開発されておらず、平成１５年時点では9,925㎡新規開発されている。

開発調査 ②

平成１２年時点で既に12,573㎡開発されており、平成１５年時点では2,274㎡開発が進み、総面積は14,847㎡開発されている。

ハンディGPSとオルソ活用例

衛星や上空視野などの環境が良ければ１～５ｍ程度の精度でログデータの取得が可能。

＊上記サンプルは、車のダッシュボードにGPSを置き、走行しながらログデータを取得したものをオルソ画像に重ね表示したもの。

オルソ画像を利用した土地利用変化の確認

平成１２年時点、農地または住宅用地だったところに、平成１５年には大型商業施設及び娯楽施設ができ、周辺には家屋が増え、さらに宅地造成が進んでいることが確認できる。

オルソ画像を利用した土砂災害状況の確認

平成１６年の災害直後のオルソ画像では、赤色の河川を無視し青色で囲われた家屋を押し流し、黄色矢印の方向に土砂が流出している。また、上流のダムには大量の土砂が堆積していることが確認できる。

今後の課題

①システムデータの更新と精度の向上

■データの精度を保ちながらシステムが有効に使われるには継続的なデータ更新が必要

しかし・・・

常に人手（時間とコスト）が必要

対策

森林組合に森林GISの導入を推進し、より現場に近い森林組合のデータを県のGISに反映

○効率的な森林資源の把握と精度の高いデータ整備

今後の課題

②人材の育成

■システムが有効に使われるには、システムを理解した人間の存在が不可欠

しかし・・・

人事異動等による担当者の交代

対策

わかりやすい操作マニュアルの作成（クイックマニュアル等）

定期的な研修の実施とその後のサポート（保守契約）

○人材の育成の有効な手段

今後の課題

③オルソ画像並びに森林地形図の更新

■システムの基盤地図情報の更新・修正は必須

しかし…

財政難

対策

ALL県庁・市町との連携（費用負担）

○効率的な更新のための仕組みづくり

今後の課題

④システム機器及びエンジンの更新

■データの保持、機器の故障による業務停滞回避からも定期的な機器交換は必須

しかし…

更新に要する経費

対策

メーカー間における相互のシステムの情報共有

保守管理の中でデータのバックアップ

○システムの更新も容易に

今後の森林GISの展開と可能性

①今後、森林組合のGISの整備の推進を図りながら、市町・森林組合との連携を図りデータを共有する

○より精度の高い森林資源情報が把握

今後の森林GISの展開と可能性

②汎用型GIS（全庁型でWeb対応）へのデータの提供

・DMCによる撮影で、近赤外画像撮影による植生（竹林・マツクイ虫被害ほか）の判読並びに面積・資源量等の分析・把握

- 県民がこれらのデータを活用
- 質の高い情報の蓄積

○県の施策の精度の向上

おわりに

- 現在、全ての都道府県において森林GISが運用
- 森林GISを整備することは、林務行政の精度を高める1つの手段
- 森林GISを初めとしたGISは、まだまだ知られておらず、一般的に普及しているとは言えない
- 本来の目的を達成するためにも、このGISを広くいろいろな業務の中で活用されるよう今後さらに普及啓発を図っていく必要がある

森林ＧＩＳを活用した施業集約化の取り組み事例

愛媛県いしづち森林組合　永井　敦

１．はじめに

当組合は今年の６月２日に隣接組合との合併によりいしづち森林組合として新しく出発いたしました。

森林ＧＩＳ導入時（旧西条市森林組合）に１６，７６４ha であった森林面積が、その後２回の組合合併、市町村合併を経て組合の施業範囲が拡大していき、現在は５２，６００ha となり、新たな森林ＧＩＳのデータ整備の必要性にせまられている状況です。

２．システム導入の経緯と効果

当組合が森林ＧＩＳを導入したのは平成５年度（１９９４年３月）であり、もうすでに１５年が経過しています。

当時の導入の主旨は林業情報を整備することにより、森林の実態を把握・分析し、森林所有者とともに地域林業の再編を図ることであったと記憶しています。

つまり、「森林所有者との合意形成」を目的とするために必要なツールであったわけです。

システム導入については、林業構造改善事業を利用し、コンピュータ等ハードが９００万円、データ入力経費等のソフトが 1,800 万円、総額 2,700 万円で整備しました。特にハード面については、現在の機種とは処理能力、スピード等においては比較になりませんが、当時としては最速の処理能力で価格もそれなりに高価なものでした。

導入効果としては、身近な林業情報を迅速に提供できることで事務の省力化や森林所有者と短時間での納得のいく話し合いが可能となり、施業集約化のための団地づくりや事業計画等に積極的に活用され、現在ではソフト面をバージョンアップし、GPS・デジタルコンパスによる測量データの管理や収支が伴う搬出間伐を実施する場合に所有者との話し合いの道具として、施業提案書、施業精算書の作成などにも利用しています。

３．システムの内容

当組合の森林情報システム（以下森人類という。）の内容は、地理情報システム、森林資源情報システム、林家情報システム、施業実績システム、施業計画システム、森林組合情報システム、実測図管理システムの７つのシステムで構成されています。

その他、森林所有者の個人財産の情報であることからバーコード方式による個人情報の保護にも配慮しています。

これらのシステム構成は 15 年前に森林所有者と合意形成を図るための対話の道具として考案され、Windows に出会ってから一部システムのバージョンアップはありましたがほとんど変わっておりません。

森人類は、導入当時はまだパソコンの普及途上であり、コンピュータ操作できる人が限られていたため、操作が簡単で、見たい（知りたい）事柄を迅速に同一画面上に同時に見られることをモットーに作っています。

ですから、各システムについても今でも十分機能し、内部 LAN の充実により当組合の職員は毎日のように、森林整備の施業計画、施業提案、林道開設計画や組合員管理に活用しています。

４．今後の課題

当組合の場合、施業範囲である新居浜市、旧西条市においては、国土調査が遅れているため森林データの精度面で不安があり、１５年かけて境界確認・面積測量を続けてきましたが、森林所有者の高齢化や後継者不足などの理由により境界不明林、放棄森林が増えていることと、境界確認には時間と経費がかかることが、データの精度が向上しない最大の要因となっています。

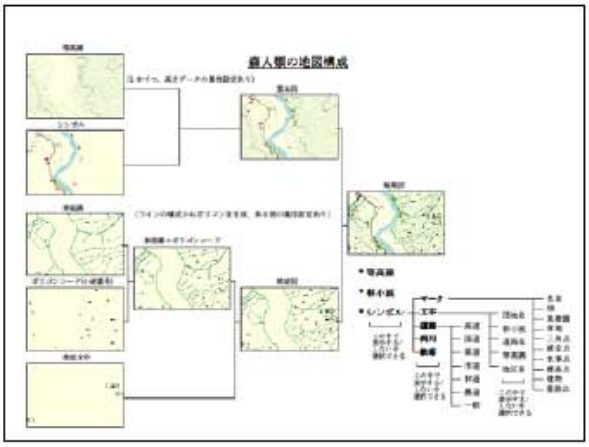
今後も地道なデータ収集活動を続けていくことでデータの精度向上を図っていくと同時に、他方では過去（昭和２０年代～３０年代）の航空写真のオルソ画像を導入することで境界確定するためのツールとして森林所有者と対話しながら境界を確定し、システムデータ整備を図っていきたいと思っています。

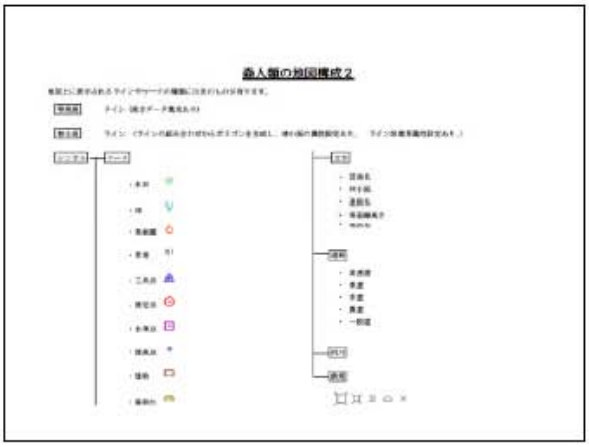
森林GISを活用した
施業集約化の取組み
いしづち森林組合
参事　永井 敦

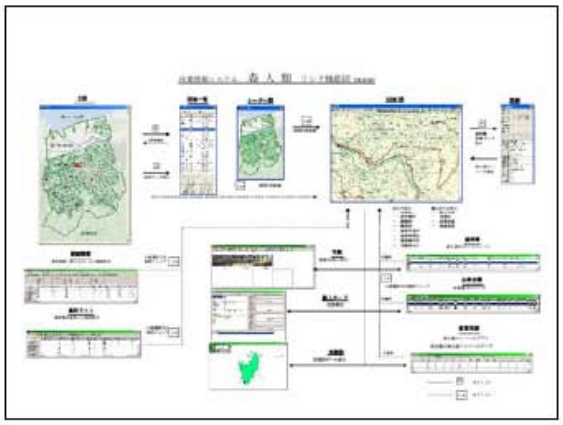
【いしづち森林組合の概要】
・組合員数 3,179人
・組合員所有面積 25,930ha
・人工林率 65%
・払込済み出資金 287,750千円
・役員数 25人
・職員数 18人
・作業班員数 直営班22人 請負班(協力会社を含む)28人 計50人
市民の緑と水を守る いしづち森林組合

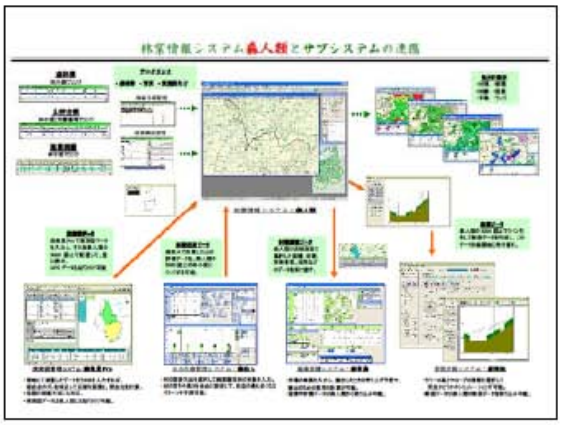
【いしづち森林組合の施業区域】
・愛媛県東部(東予地域)
いしづち森林組合施業エリア図

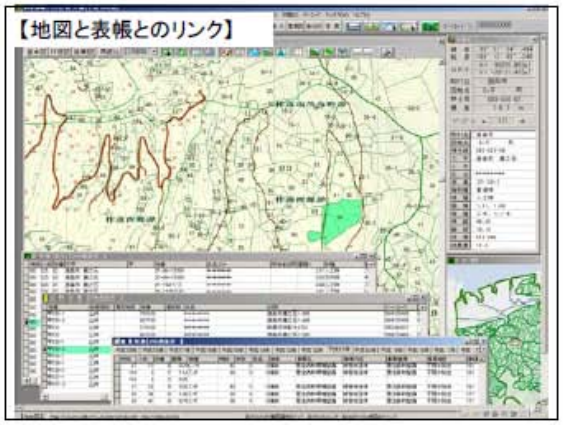
林業情報システム
森 人 類

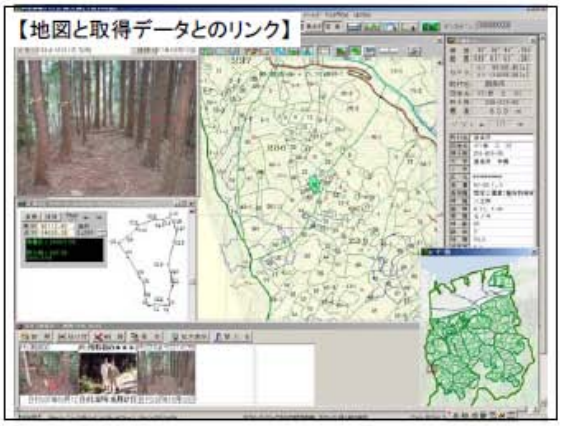

森人類の地図構成

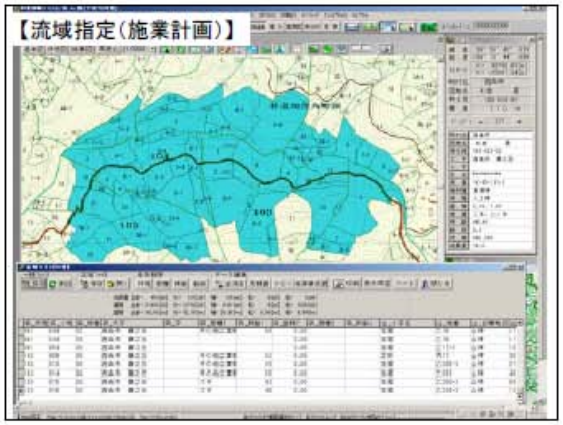

森人類の地図構成2

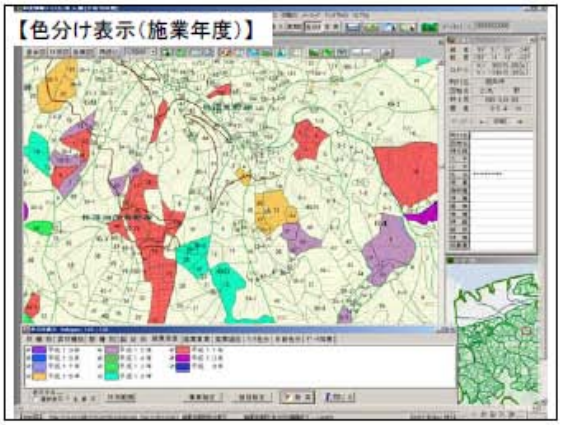



林業情報システム森人類とサブシステムの連携


【地図と表帳とのリンク】

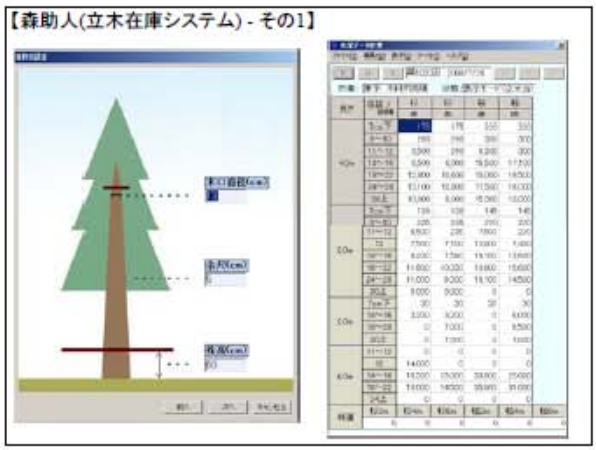

【地図と取得データとのリンク】


【流域指定(施業計画)】

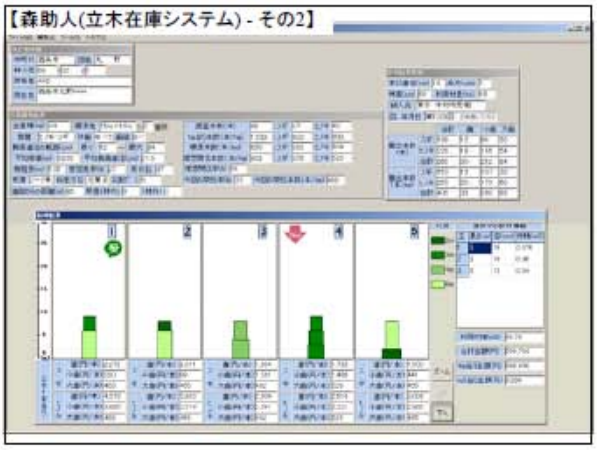

【色分け表示(施業年度)】

【資源調査データ管理】

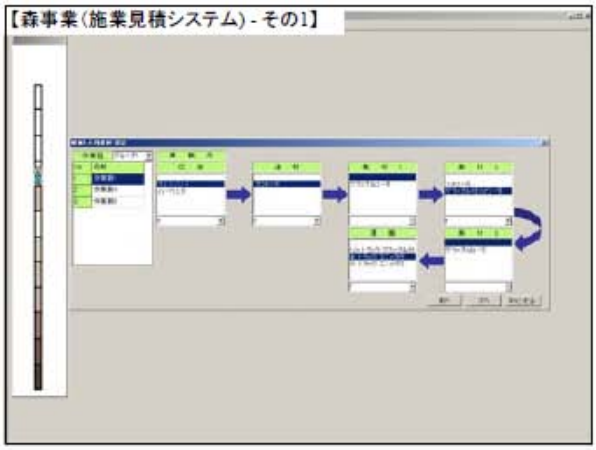
【森助人(立木在庫システム) - その1】



【森助人(立木在庫システム) - その2】



【森事業(施業見積システム) - その1】



【森事業(施業見積システム) - その2】

自然災害へのＧＩＳの活用について

向谷光彦[1]

[1]博(工)　高松工業高等専門学校准教授　建設環境工学科（〒761-8058 香川県高松市勅使町 355）
Tel. 087-869-3921，Fax. 087-869-3929，E-mail: mitsu@takamatsu-nct.ac.jp

１．はじめに

香川県では，平成 16 年 8 月 30 日からの台風 16 号の接近と大潮の満潮時刻とが重なるなどの悪条件により，観測史上まれにみる高潮に見舞われ，各地で非常に大きな被害が生じた. 高松市内においては, 死者 2 名，浸水家屋 15,561 戸（床上 6,093 戸，床下 9,468 戸）に及ぶ甚大な被害となった.

土木学会四国豪雨･高潮災害香川地区調査団（団長：長谷川修一 香川大学教授）では，この高潮による被害を深刻に受け止め，高潮災害の経験を今後の防災行政･危機管理行政に活かしていくため, 被害のあった住民の皆様の被害実態や行動の実態，災害情報の取得状況，防災行政への意見等を広く聴取するアンケート調査を実施することとした．調査に際しては, 高松工業高等専門学校 建設環境工学科の向谷と当時高松高専の及川助手が担当として実施することとなった.

調査の実施概要は表１に示すとおりである．本稿では，その調査の速報的集計結果から得られる幾つかの知見を紹介する.

表１　調査実施概要

実施時期	平成 16 年 9 月 28 日～10 月 25 日
調査対象	高松市内の高潮浸水域およびその周辺に居住する世帯
調査票配布数	4,402 票
調査票回収数	1,447 票（約 32.9%）
配布方法	高松高専の学生と教員による訪問配布・留め置き方式. 抽出方法はエリアサンプリング.
回収方法	郵送回収 （切手不要．料金後納受取人払い）
その他	調査票は A4．両面印刷の冊子状となっている．調査票配布時には，この調査票の他に，返信用封筒を同封して配布した.

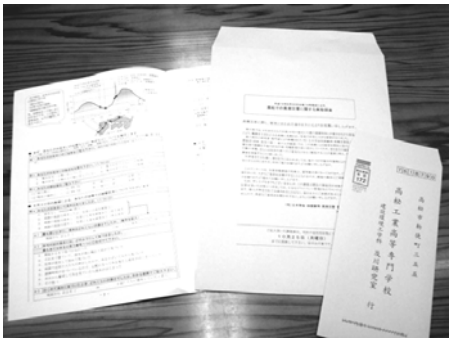


図１　調査票

２．浸水被害の実態

まず，高潮災害の概要について振り返える．台風 16 号の経路と高松市の潮位変化, ならびに避難勧告発表時刻などとの対応関係をまとめると，図２のようになる. 30 日深夜にかけて高松港の潮位は上昇を続け, 台風 16 号が日本海側へ抜けようとする 21:00 頃には既に警報水位に近づいており，最高潮位 246m を記録した 22:42 に至るまでの期間に，図に示すような時刻に避難勧告等の情報が一部地域へ発表となった．このときの浸水域および避難勧告の発表の対象地域を地図上にまとめると図３のようになる.

ここで，浸水域に居住する本調査回答者の回答をもとに，浸水の広がり方を時系列にまとめると，図４のようになる. 30 日の夕方にはほとんど浸水が生じていなかったが，最高潮位の時刻に近づくにつれて「浸水している」とする回答が急増している様子がわかる．これに対して，浸水が引いていく過程に関しては, 翌 31 日 9:00 頃には約 30%にまで減少する傾向と，その後 31 日の夜まで浸水が長引く傾向の，２つの減少傾向を伺うことができる.

そこで，回答者の浸水実績に関する回答を，地図上に町丁目単位で集計した結果を図５に示す．ここで, 図は 30 日 20:00 から 9 月 1 日 0:00 までの時間経過にそって浸水過程を示しており，色が濃くなるほど，各エリア内における「浸水した」とする回答者が占める割合が高いことを示している．なお，水色の格子エリアについては，回答を得られなかった地区，もしくは工場や店舗のみの地区であり，浸水

実績についての調査結果が得られていない地区を示す.

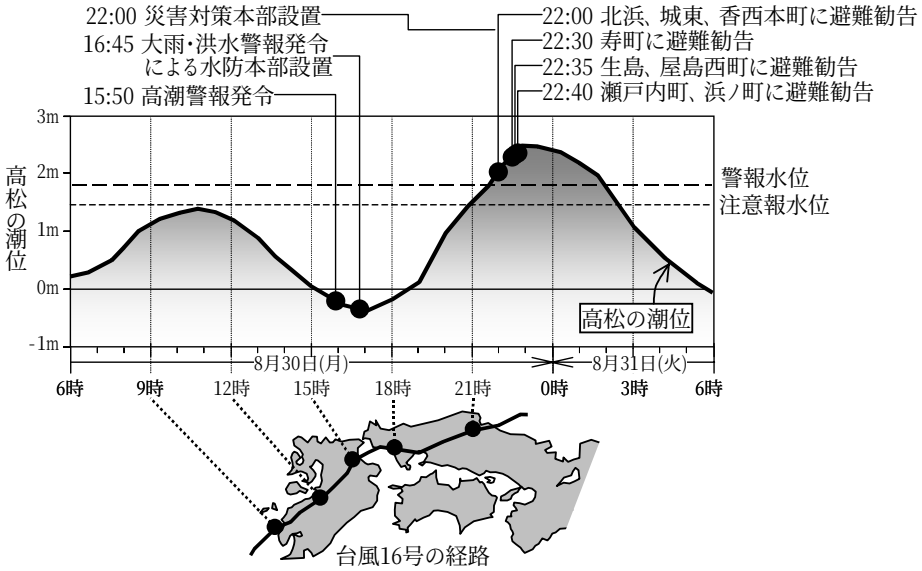


図２　高松市の潮位変化と台風進路・避難勧告発表時刻等との対応図

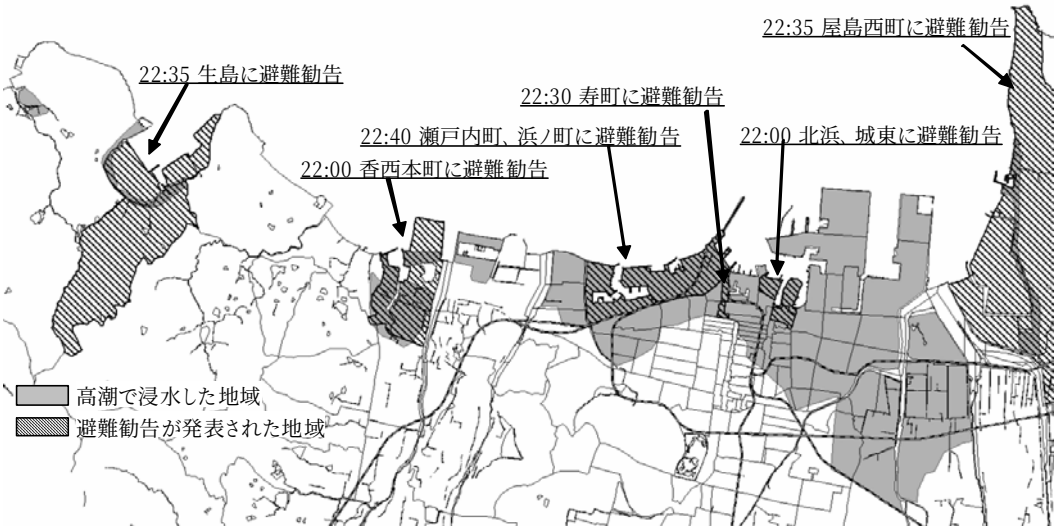


図３　高松市内の主な高潮浸水域と避難勧告対象地域　（参考資料１）,2）を基に作成）

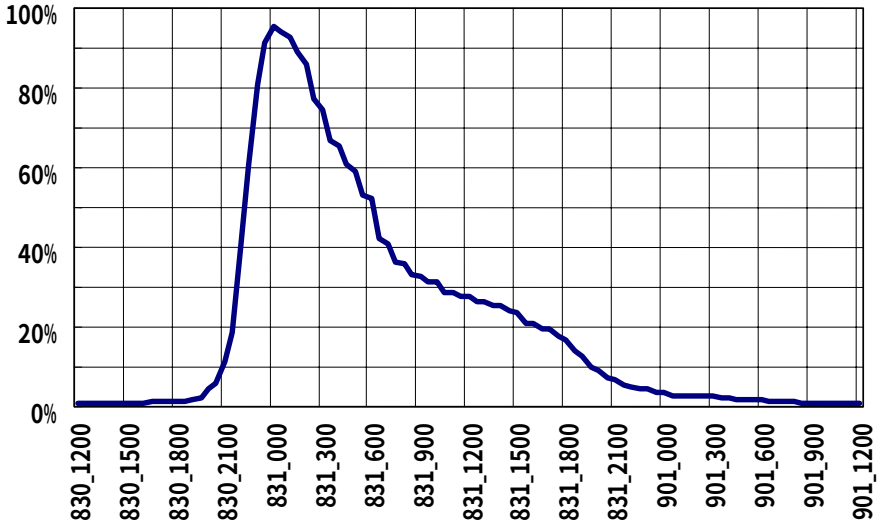


図４　調査回答による浸水の時系列変化

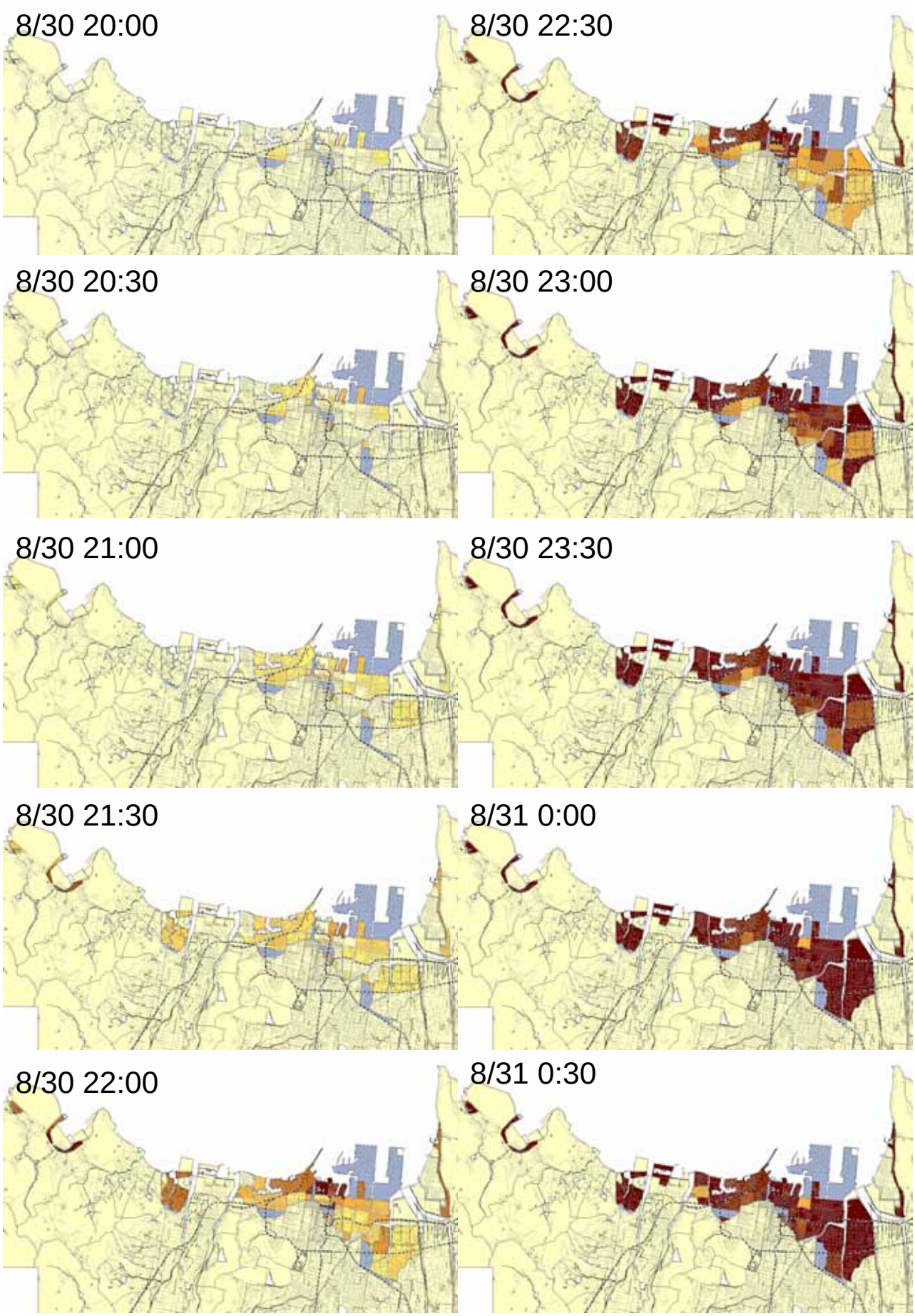


図５　調査回答による浸水過程の把握（１）

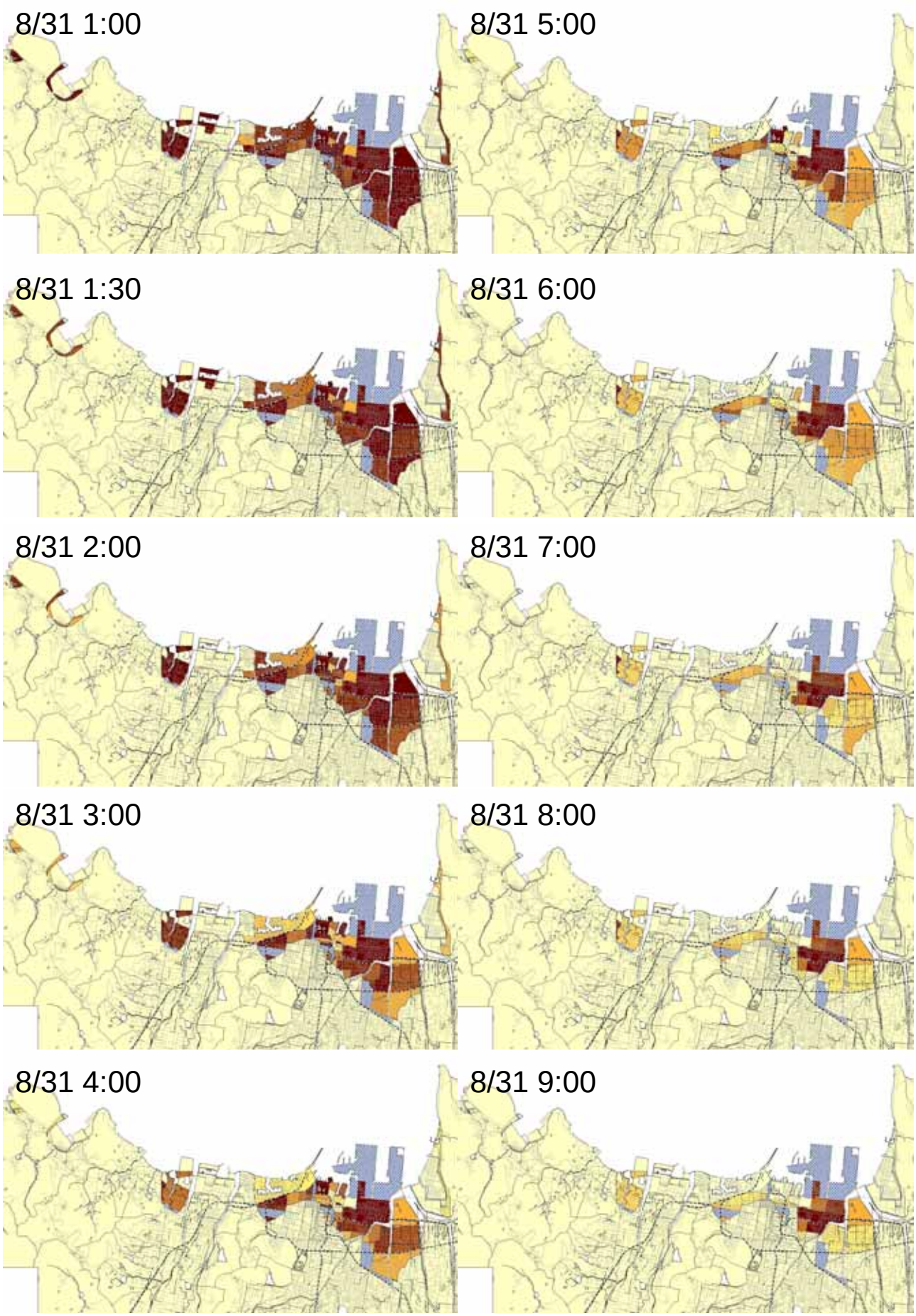


図５　調査回答による浸水過程の把握（２）

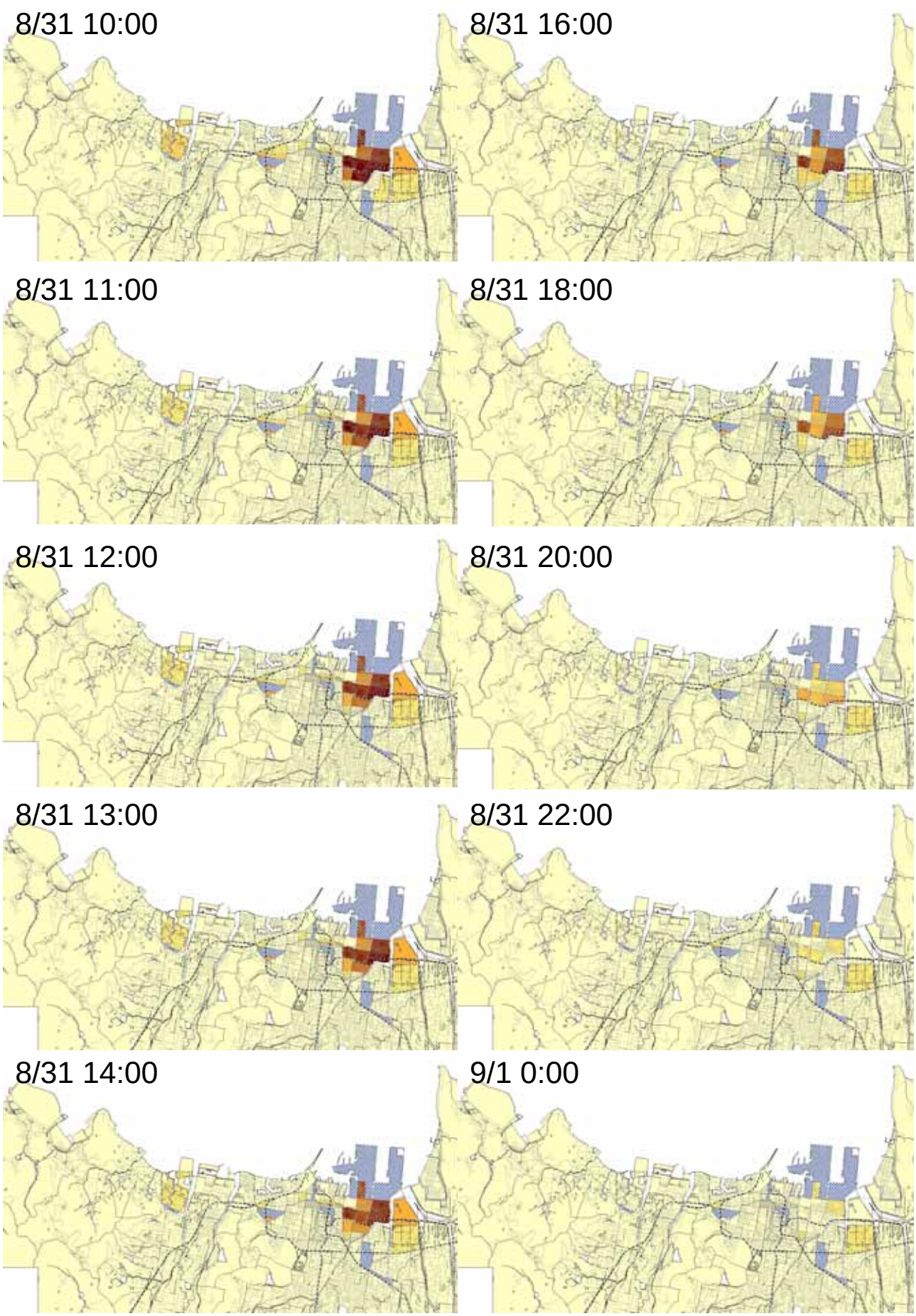


図５　調査回答による浸水過程の把握（３）

これらによると，海岸域を中心とした地域では，浸水が早い時期から始まるとともに，比較的早くに浸水が引き始めている様子や，内陸部においては，早い時期から浸水が開始している一方で，浸水が 31 日夜まで長引いている様子などを確認することができる．

３．おわりに

このたびの高潮災害では，これまで被災経験が比較的少なかった高松市や香川県において，多岐にわたる防災上の課題が浮き彫りになった．この点を指摘する住民の自由記述意見も多数見受けられ，またアンケート調査の分析によると，行政の危機意識の低さを指摘する回答も多くを占めている．しかし，その一方で，危機意識が低かったのは行政のみではなく，住民自身もそうであったようである．地域の防災力（減災力）の向上は，行政のみの努力で達成されるものではなく，地域住民と行政とが一体となり，それぞれが自分自身の問題として取り組んでいく必要がある．このため，すでに各機関において防災上の問題に関する多くの検討が始められているようであり，図６のような科学的データの広報，共有化が進み始めている．これらの議論は，一部の専門家や担当者のみでなされるのではなく，情報や意識のレベルを住民・行政の双方で共有できるような仕組みが求められるのではないだろうか．

図６　ホームページによる津波浸水予測図の公表 [3)]

謝辞：

高潮被害にあわれた方々には，心からお見舞い申し上げます．また，大きなご心労の中にも関わらず，調査にご協力頂き，誠に有難う御座います．調査実施に際しては，高松高専建設環境工学科学生および専攻科建設工学専攻学生の諸君に多大なる協力を頂きました．記して謝意を表します．

参考文献：

1)　四国新聞，平成 16 年 9 月 5 日，第 5 面.
2)　高松市ホームページ
（http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/）.
3)　香川県ホームページ
（http://www.pref.kagawa.jp/）.

賛助会員について

森林 GIS フォーラム 事務局

森林ＧＩＳフォーラムをサポートしていただいている賛助会員は以下の７団体です。

【賛助会員一覧（敬称略）】

・株式会社パスコ　http://www.pasco.co.jp/
・国土地図株式会社　http://www.kokudochizu.co.jp/
・パシフィックコンサルタンツ株式会社　http://www.pacific.co.jp/
・日本電気株式会社
・東京スポットイマージュ株式会社　http://www.spotimage.co.jp/
・社団法人日本森林技術協会　http://www.jafta.or.jp/index-j.html
・北海道地図株式会社　http://www.hcc.co.jp/

２００８年度　第１回運営委員会の報告

日時：５月 21 日（水曜日）　13 時～15 時
場所：東京大学農学部 1 号館 105 号室
出席：
（役　員）
松村直人、佐野真琴
（運営委員）
鉢村　勉（欠席）、広嶋卓也、村上拓彦
（賛助会員）
日本電気(株)　三上健太（欠席）
(株)パスコ　菊池譲
国土地図(株)　弘瀬達夫
パシフィックコンサルタンツ(株)　鈴木仁
東京スポットイマージュ(株)　横山猶吉
(社)日本森林技術協会　野口絵美
（事務局）
松英恵吾、光田靖（欠席）
（旧役員）
加藤正人、菅野正人、梅沢光一

次　　第

１．　開会の挨拶
２．　最近の話題から
「国際的基準に基づく森林の生物多様性動態予測モデル」森林総研　佐野真琴
３．2007 年度活動報告
・ニューズレターの発行：Vol.39（2007.8）、Vol.40（2008.1）、Vol.41（2008.4）を発行。
・地域セミナー in 熊本「熊本県における森林 GIS の現状」11 月 14 日（水）　11 時～17 時　ホテル熊本テルサ（熊本県熊本市）
・学生・技術者のための森林リモートセンシング画像解析セミナー in 信州　2007 年９月９日（日）～10 日（月）　信州大学農学部２６番教室(長野県上伊那郡南箕輪村)
・第４回学生フォーラム in 宇都宮
11 月１（木）～2 日（金）　宇都宮大学　学生会館多目的ホール(栃木県宇都宮市)
・平成 19 年度 東京シンポジウム
２月４日（月）　10 時～17 時　東京大学農学部　弥生講堂
４．2007 年度決算報告
　次ページ会計報告のとおり
５．2008 年度活動計画
・地域セミナー：2008 年９月 11 日(水)に香川県で開催する。
・学生セミナー：2008 年９月８、９日に名古屋大学で開催予定。担当は名古屋大学山本一清氏に依頼済み。
・ミニシンポジウム：2008 年 10 月６日に北海道で開催予定。菅野北海道地区委員が開催を担当する。
・学生フォーラム：2008 年秋を候補に調整。

東京大学秩父演習林藤原章雄氏に開催を打診中。
・東京シンポジウム：例年通り林野庁計画研究会前日に、東京大学弥生講堂にて開催予定。
・ニューズレター：年３回発行を予定（９月、１月、４月）。ネット配信継続（ネット配信の無い会員へは郵送）。
５．会員の入退会
・賛助会員の退会：国土防災技術(株)が退会、運営委員会で正式承認
・個人会員の入退会状況： 2008 年 4 月現在の会員は 112 名。メールアドレスが変わったなどで連絡が取れない会員に対する対応が要検討。
６．運営委員の変更
・体制の変更に伴い変更となった（下記一覧表参照）。
７．その他
８．閉会の挨拶

会計報告

収支状況	収入の部 合計 ¥1,049,873	支出の部 合計 ¥1,283,188	
	会費 850,000 事業収入 197,000 雑収入 2,873 顛末 前期繰越 3,378,024 当期残金 -233,315 翌期繰越 3,144,709	事業経費計 1,132,293 講師委託 40,000 学生フォーラム 320,000 アルバイト 12,800 旅費交通費 325,494 通信 2,860 会議 197,000 会場借料 227,150 事務消耗 6,989	広告宣伝費 55,440 事務その他経費計 95,455 旅費交通費 74,300 会議 10,000 事務消耗 6,000 支払手数料 5,155
資産状況	¥3,144,709 ：内訳 上記繰越金		

（2008-2009 年度運営委員，2008.04.01 現在）

会長	松村 直人	三重大学生物資源学部
副会長	佐野 真琴	森林総研
事務局長	松英 恵吾	宇都宮大学
事務局（会計）	光田 靖	森林総研

（運営委員）

林野庁	鉢村 勉	林野庁計画課（留任）
北海道	菅野 正人	北海道立林業試験場（新任）
東北	野堀 嘉裕	山形大学農学部（留任）
関東	広嶋 卓也	東京大学大学院農学生命科学研究科（留任）
関東	村上 拓彦	新潟大学農学部(新任)
中部	古川 邦明	岐阜県森林研究所（留任）
関西	野田 巌	森林総研関西（留任）
中国	藤山 浩	島根県中山間地域研究センター（留任）
四国	河野 裕	香川県環境森林部みどり整備課（新任）
九州	寺岡 行雄	鹿児島大学農学部（留任）

（文責：事務局　松英恵吾）

＜編集後記＞

森林GISフォーラム事務局長の松英です。2008年度より森林GISフォーラムの事務局を担当しております。私自身が当フォーラムに関わるのは2007年に開催を担当させていただいた学生フォーラム2007in宇都宮が初めてであります。その翌年度にいきなり事務局長の大役を仰せつかり、フォーラムの年間の活動の流れを把握し、開催行事をこなすことに追われニュースレターの発行が例年になく遅れたことをお詫び申し上げます。年が明け2008年度も終わりが見えたこの時期に新体制になってはじめてのニュースレターを発行させていただきました。今回は新会長の挨拶、９月に名古屋大学で開催された学生・技術者のためのGIS/RSセミナーin名古屋2008、平成20年度地域セミナーin香川の開催報告、運営委員会の開催報告を掲載しております。次号は北海道ミニシンポ、学生フォーラムin秩父の開催報告を中心に近々発行することを予定しております。また、2009年２月1日には東京シンポジウムが開催されます。今後とも森林ＧＩＳフォーラムをよろしくお願いします。

森林GISフォーラム
ニューズレター　Vol．42
発行日　2009年1月
編集人　　松英恵吾
発行人　　松英恵吾

森林GISフォーラム事務局
〒321-8505　宇都宮市峰町350
宇都宮大学農学部森林科学科 内
TEL/FAX ： 028（649）5532（ex.402）
E-mail ： info ＠ fgis.jp
ホームページ ：http://www.fgis.jp/